

『民間仮面史の基礎的研究』のご紹介

神奈川県の神楽面について学ぶには、後藤淑氏が著した大著を通ることが重要です。

私たち実行委員会がただいま調査中の海南神社の神楽面（三浦市）については、483ページ～484ページに風の麵、雨の面が紹介されています。

また、萩原社中（家元萩原諄夫氏）の神楽面については、本書の493ページ～501ページに詳しく紹介されています。加えて亀山社中（相模原市上溝番田）の神楽面は、514ページ～522ページに詳しく紹介されています。

その他には、「相州大草神楽の仮面」として、神代神楽の神楽面が502ページ～513ページにわたって詳しく紹介されています。大草神楽について、私たちは調査対象にしておりませんが、神奈川の神楽面を調査する上で、重要な資料だと思っています。

何れにしても、『民間仮面史の基礎的研究』の「第二部 資料・考証篇」は関東はもとより、全国の神楽面の様相を知る上で、これ以上の成果はないと思われるぐらいの内容で、私たち実行委員会のバイブルとなっています。もちろん、「第一部 解説・研究篇」の重要性は論を俟たないです。

○奥付紹介

後藤淑 『民間仮面史の基礎的研究-日本芸能史と関連して~』 平成七年 錦正社